



## ★W. R. ランバスの遺髪の寄贈と没後 100 年記念礼拝

創立者 W. R. ランバスの遺髪が、本年 4 月をもって廃校となった神戸のハルモア学院 (1886 年創立) から舟木 讓第 17 代院長のもとに届けられました (ランバスは、日本訪問中の 1921 年 9 月 26 日、横浜で亡くなりました)。託された遺髪は、ランバス関係姉妹校である啓明学院と関西学院で保管することになり、10 月 2 日まで開催されていた大学博物館の平常展「ランバス没後 100 年 学院の誕生・原田の森時代」で初公開されました。



9 月 26 日、上ヶ原のランバス記念礼拝堂で、学院創立 132 周年・W. R. ランバス宣教師没後 100 年記念礼拝が行われました (オンライン&録画配信)。



## ★駐日ラトビア共和国大使館によるイアン・オゾリンの紹介

本年 (2021 年)、日本とラトビアが友好関係を結んで 100 年を迎えることを記念し、駐日ラトビア共和国大使館が 100 枚の写真を使って両国の歴史的関係を SNS で発信しています。その中で、1918 年から 21 年にかけて、関西学院で英語教師を務めたイアン・オゾリン【右から 4 人目】が当室提供の写真と共に、次のように紹介されました。「日本で最初に信任されたラトビアの外交官は、ヤーニス・ブルトニエクスのペンネームでラトビアでは今も良く知られる作家ヤーニス・アンドレイス・オゾリンシュ (イアン・オゾリン) 氏でした」。その働きを記念し、2011 年にペーテリス・ヴァイヴァルス初代駐日大使から井上琢智学長にオークとシラカバの苗木 (2013 年 2 月、文学部北に植樹) が贈呈されたことにも触れられています。

アメリカでは作家ジョン・ブルトニエクスとして知られたオゾリンの訃報を掲載した *The New York Times* (1959 年 10 月 6 日) は、故人と日本の関係をこう伝えています。「ギター音楽の専門家、ラトビア、日本、アメリカで哲学を教えた」。



## ★「大澤壽人 神戸からボストン・パリへ 1930-1953」展の会期延長と演奏会のお知らせ

民音音楽博物館西日本館 (神戸市中央区) で開催中の標記展示は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う長期閉館を経て、本年 12 月 12 日まで会期延長されています (土・日・祝 10:00~17:00、入場無料)。関西学院中学部と高等商業学部で学んだ大澤は、作曲家・指揮者としてボストンとパリで高く評価され、帰国後も、1953 年に 47 歳の若さで急逝するまで音楽活動を続けました。



同展を監修された大澤資料プロジェクト代表の生島

美紀子さんは、NHK「関西発ラジオ深夜便」(『明日へのことば〜いま蘇る、忘れられた作曲家大澤壽人』、7 月 3 日、17 日) に出演された際、多くの邦人がヨーロッパに向かった時代に、関西学院のベーツ院長と那須生平高等商業学部教授【写真】の推薦によってボストンに留学したことが、大澤の才能の開花に結びついた、と改めて指摘されました。

2022 年 1 月 8 日、芦屋市民センター (ルナ・ホール) で、大澤の作品を紹介する演奏会「阪神間モダニズムの音楽 大澤壽人の室内音楽作品」が開催され、《チェロとピアノのためのソナタ》《ピアノ五重奏曲》が演奏されます。



## ★全国大学史資料協議会全国研究会の開催

10 月 7 日、標記研究会が「大学スポーツ史とアーカイブズ」をテーマに、本学を会場校として Zoom で開催されました (当室は、大学史資料協議会西日本部会の会長校を務めています)。午前 11 時半からは、高岡裕之文学部教授が「近現代日本の体育・スポーツ史とその特徴」というタイトルで講演されました。

## 海を渡った版画家たち ～平塚運一と神原浩～ (人生 100 年版画家) (油彩画・銅板画家)

関西学院普通学部を卒業し、キューバ、フランスに学んだ神原浩 (1892~1970) の作品 (初公開多数) が 2022 年 1 月 15 日から 3 月 27 日まで、神戸ゆかりの美術館 (六甲アイランド) で展示されます (月曜休館、祝日は開館)。神原は、戦前の中学部で美術教師を務めました。